森を眺める時間を
暮らしの中心に据えた、
美しい心に帰る家。

【青木 茂さん・奈緒さん宅(札幌市)】

森に隣接した双子山の通り沿いに、昨年HOPの家を建てたのは、青木茂さん、奈緒さん夫妻。4年前にマンションを購入したばかりだったという2人にとって、一軒家を建てることなど、当初考えてもいない選択だったという。それが、たまたま見に入ったHOPのモデルハウスで、スタッフの人柄を含めたその魅力に、すっかり心を奪われてしまったというのだ。「HOPの家は良いんだということを、すごく、ご自身が感じているという様子が、いい意味で私たちに実感として伝わりましてね。すごく純真なというか、素朴というか、無垢というか、そんな気持ちが私たちにも宿ったのかなと思うんですよね。マンションも買っていたんですけど、とにかく忘れられなくて、2人でドライブをしては、あ、あそこにHOPの家があるね、なんて話し合うほどになっていた矢先に、こういう土地に出会えて…」。

リビングの大きな窓から見えていたのはアカシアの木。これをメインツリーとしてセンターに据え、窓から森を眺める贅沢な時間を全ての基本にしながら、この家はデザインされた。家づくりにおいて、希望が100パーセント叶うことなど不可能と考えていた青木さんにとって、出来上がりまでの全て、もっと言えば住み始めてから今日に至る全てが、新鮮な驚きと感動に溢れていたようだ。「企画担当の渡邊さんには私たちの気持ちを100パーセント飲み込んでもらって。もう本当に細かいところまで、『これ、青木さんが求めていたところでしょ』っていう、言葉には出さないんですけれども無言で伝わってくるものがありました。すごく雰囲気は優雅でやさしそうな方なんですけども、芯の強くて、あれを言ってもこれを言っても決してノーは言わない方だったなと思いますね」。

ここで思い出されたのが石出社長の言葉だった。HOPという会社がおかげさまで不景気でも一切動揺せずにいられるのは、結局モノを売っているからではないのだと。お客さんが喜んでくれる、感動してくれる分しか、仕事というのはもらえない。その大きさが売り上げに繋がるわけで、売り上げが少ないということは、お客さんの喜ぶ量が少

青木さん夫妻と、愛犬フェアリーちゃん。物腰の柔らかな茂さんと、キラキラとした笑顔の眩しい奈緒さんは、学生時代の「お散歩サークル」で知りあって結婚したそう。常に笑いの絶えない、温かくて本当に仲の良いご夫婦でした。

写真左／振る舞っていただいたのは、奈緒さん手作りのお菓子。何気ない心遣いに感激。
写真右2枚／入口から玄関に至るまでは、家の周りを囲うようにして屋根付きの長いエントランスとなっている。

青木邸のリビングに入るとまず驚くのが、大きな窓と圧巻の森。奥に進むと上は吹き抜けになっており、さらなる解放感に癒される。フローリングは道産のナラ材を使用。